99日本国特許疗(JP)

10 特許出願公開

◎ 公開特許公報(A) 昭62-151100

@lnt_Cl_1

識別記号 庁内整理番号

❷公開 昭和62年(1987)7月6日

H 04 R 25/02

Z-5824-5D

審査請求 朱請求 発明の数 1 (全4頁)

母発明の名称 補聴器

❷符 Ø 昭60-295251❷出 Ø 昭60(1985)12月25日

⑥発明 岩 野 々 村 英 一 横浜市港北区加島東4丁目3番1号 松下通信工業株式全

社内

企出 照 人 松下電器產業株式会社 門其市大字門真1006香地

10代理人 井理士 中尾 敏男 外1名

弗 超 4

1. 発射の名称 袖磁器

2 特許很求の短風

(i) 「無傷者の平、使用者の平孔内に挿入する制度 液体の中に内観イヤホンを超込み、再介に破落 する情報資本体とはコードによって披続した稀 環路。

(1) イヤセールドシェルを耳孔内におちまるよう に成形した中許和水板服第1項配数の通路器。

3. 発兜の評額な説明

産業上の利用分衡

本発明は耳介に主要構造部を駆けて使用する権 理費に関するものである。

従来の技術

校来、平介に主要構造部を受けて使用する平か け形の領籍等の構造を第3回に示す。以下従来例 の構成について第3回とともに説明する。第3回 において、21 はショコン裏のイヤチップでイヤ チップホルダー 22 に取付けてある。またイヤチ

ップホルダー 22 は海谷テューブ 23 を介して摘葉 料本体のハンガ 24 と数級されている。 25 は内数 形のイヤホンで、イヤホン音孔チェーブ34 KT ハンガ 24 に接続され、このイヤカン 25 で発生し た音圧はイヤホン音孔チューズ 34 →ハンガ 24 → 導音チューブ 23 →イヤチャプホルダー 22 →イヤ チップ 21 を雇由して使用者の耳孔へ導かれると とになる。 25 はマイクロホン、 27 は谷虫餠並ポ リウム、28は切集スイッチ、29は電池、30は周 差用とりで、31 は電池ケース、52 は増級部、33 は対験製の本体ケース、35 はブリント 遊復であ る。また使用者の写孔の形状によってはイヤチャ プ 21 が十分に挿入できない場合ハウリング を 過 こすため、使用者の耳型をとって耳孔にピッタリ 供属できる第8回に示すようなイヤモールドシュ ル 36 を用いることもある。その他に関放 数 特性 上でのピータを抑えるために第4因に示すように 音望フィルタ 37 をハンガ 24 に挿入して用いるC ೬೬೮ಕರ.

発明が解決しようとする問題点

に抵抗している。 したがってこの炎的例ではイヤ

カンの交換はできないが、イヤホンを外耳道内に

促くことによる周辺放射性の平担化を行うことが

特別昭 62-151100 (3)

ン、3は音量講覧ポリウム、4は切換スイッチ、 5は電池、6は電池ケース、8は調整用とりで、 17 は電子回路部、16 はプリント芸板であり搭轄 谷の本体ケース 7 の中に坦込まれている。プリン ト茜板 16 上の出力数子部からケーブル 13 を通じ て低気出力信号が内容イヤホンしに導かれる。ケ ープル 13 はハンガー部9チューブ相合部 12 の中 を配施されコネクタ 14 に結節される。内張イヤホ ン」が実装されているイヤモールド10 には、本 体例のコネクタ 14 に相対するコネクタ 15 を有し 本体例からの電気信号を受け、内偽イヤホン1へ と袋送する。CCで内袋イヤホンLの視点を換え た内袋イヤホン 1、イヤモールド部 1Q コネクク 15 から形位されるイヤモールドシェル部を 用意 しておけば簡単に特性の違う複雑機を構成できる 知点をおする。

セた第2回は他の実施例の整部を示すものであり、この実施例では第1回では、15のコネクタ をなくし直接ケーブル13をイヤモールド10に固 定し本体からのケーブル13を返送内袋イナホン1 本気別は上記突接例より努うかなように従来ばかけ形の活題器本体に内立されている内突イヤホンを本体から取出しイヤモールドシェルに想込んだものであり、従来事かけ形の別放数特性に比べ 平規な馬旋数特性を得ることができるという効果・を有する。 またイヤホンを超込んだイヤモールドシェルを 取換えることにより、使用者の色々な特性に合わ

収換えることにより、使用学の色々な特性に合わせた初度性の特性を調整することが可能である。 また使用者の呼ばを調整することが可能である。 また使用者の呼びに合わせたイヤモールドシュ

ルを十分に小さく作ることにより外観上初聴容数 用していることが目立ちにくく使用者の心頭的な 飲水を満足することが可能であり、音切フィード パッタ(ハウリング)の点でも大幅な改善を得る ことができる効果を有する。

4. 図節の筋単な説明

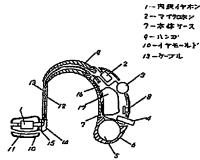
第1億は本発明の一支施例における指導数の構成的、第2億は他の実施例を示す姿態構成的、第 3億は従来の補助器を示す構成的、第4億、第5億は従来の初期構の開発を示す構成的、第4億、第5億は従来の利期構の関係数件性的、第7億は従来列における改善されたの複数条件のである。

1 …内供イヤホン、2 …マイタロホン、3 … 音 登朗差ボリウム、4 … 切換スイッテ、5 … 電性、 6 … 電性ケース、7 …本体ケース、8 … 限整用ト リマ、9 …ハンガ、10 …イヤモールド、11 … ベ ント、12 …ケーブル技優、13 …ケーブル、14 …コネタタ、15 …コネタタ、16 … ブリント苦級、 17 … 電子回路部。

代理人の任名 弁理士 中 尽 数 男 ほか1名

1 図

T83.



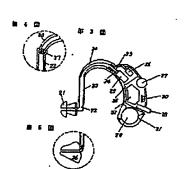
86 2 (2)



-527-

BEST AVAILABLE COPY

特別電62~151100 (4)







-528-

9/5/2003 6:58 PM

PHONAK

hearing systems

Switzerland

Media release

UHA 2003:

Phonak know-how address Auditory Processing Disorders

New device, EduLink, helps the brain to understand.

Stäfa, October 15, 2003 – The latest innovation from Phonak, EduLink, is set to make a key contribution to the successful treatment of children with Auditory Processing Disorders (APD). This new device is not a conventional hearing instrument or a standard headphone set, but rather an ingenious "ear set". It transmits the teacher's voice, using FM technology, directly to the child's ear and effectively reduces ambient and background noise for improved speech discrimination. EduLink is designed to complement existing therapies in the treatment of APD.

Auditory Processing Disorders – not to be confused with hearing Impairments – are often behind the emergence of speech and learning disorders. These are occurring increasingly frequently in children, to varying degrees. Experts call these "a phenomena of our times" and believe that a lot of learning difficulties in school could be attributed at least partially to APD. Often, APD is detected in the context of Attention Deficit Disorder (ADD) und Hyperactivity (ADSD). It also could be a significant contributory factor in the emergence of the common reading and writing disorder, dyslexia.

Children with Auditory Processing Disorders have normal intelligence and normal hearing ability. Nevertheless they have problems understanding. The cause is not to be found in the ear but in the brain where the processing and evaluation of signals (nerve impulses) that leave the ear in an unadulterated form are impaired. Auditory processing is the basis for various, extremely important functions such as understanding speech, recognizing meaning or the emotional registration of acoustic information. In short: Auditory Processing is the key to learning and communication.

The classroom in particular poses a major challenge to the treatment of APD. Here children with Auditory Processing Disorders have extreme difficulties in understanding the teacher's voice. EduLink ensures that this important information reaches the ear as a priority. The findings of numerous studies as well as ongoing field tests in Europe and the USA clearly indicate the enormous potential of systems which improve the signal-to-noise ratio, to help children with APD.

PHONAK

hearing systems

Media release

With EduLink Phonak wants to support existing therapeutic approaches and give children a good start in learning vital communication skills.

Three decades of experience in developing and producing effective hearing systems for people with a hearing loss together with a pioneering role in pediatric audiology, qualify Phonak to enable EduLink to benefit the many children with APD.

For more details on the full range of Phonak products visit www.phonak.com.

Contact for more information Olivier Stähli

Phone +41 1 928 01 01 Fax +41 1 928 07 07 olivier.staehli@phonak.ch

Phonak Ltd. Laubisrütistrasse 28 CH-8712 Stāfa Switzerland

www.phonak.com

2/2